

平成30年度
トゥール市派遣親善研修生
報告書

平成30年9月23日(日)～10月2日(火) 10日間



© Ville de Tours - DRICD



公益
財団
法人

Takamatsu International Association
高松市国際交流協会

目次

1 日程	1
2 フォトギャラリー	3
3 親善研修生 報告書 I	
	ピアノ講師 多田羅 愛
日誌・活動記録	5
感想文「トゥール市での研修を終えて」	14
4 親善研修生 報告書 II	
	香川大学経済学部 2年 林 美玖
日誌・活動記録	15
感想文「繋がりを大切に」	26

平成 30 年度トゥール市派遣親善研修生 滞在日程表

平成 30 年 9 月 23 日(日) - 10 月 2 日(火)

日 付	場 所	内 容
9 月 23 日(日)	高松駅(リムジンバス) - 関西空港 - シャルル・ド・ゴール空港 - サン・ピエール・デ・コール駅到着(TGV)	トゥール市役所職員・ホストファミリー出迎え
9 月 24 日(月)	トゥール市役所	トゥール市役所にて昼食
	トゥール市旧市街見学	旧市街とプリュムロー広場の見学
	デカルト高校	習字ワークショップ
9 月 25 日(火)	プロワ城	プロワ城見学
	トゥール大学プロワ技術短期大学部	おりがみワークショップ
9 月 26 日(水)	トゥール市内見学	レ・アール(常設市場) トゥール美術館見学
	キッズリクリエーションセンター	習字・おりがみワークショップ
9 月 27 日(木)	サンガシアン大聖堂	大聖堂を見学
	フランス・プーランク音楽学校	音楽学校の授業や施設を見学
	デイドロ小学校訪問	かるた・習字ワークショップ
9 月 28 日(金)	マルムティエ学園小学部	おりがみワークショップ
	マルムティエ学園高等部	茶道体験
	ヴィランドリー城	城内・庭園見学、城主訪問
9 月 29 日(土)	トゥール植物園	日本文化紹介イベントに参加 うちわ・習字ワークショップ
9 月 30 日(日)	サン・ピエール・デ・コール駅到着(TGV) - モンパルナス駅	トゥール市役所職員・ホストファミリー見送り
	パリ	パリ市内観光
10 月 1 日(月)	モンパルナス駅(シャトルバス) - シャルル・ド・ゴール空港	—
10 月 2 日(火)	関西空港 - 高松駅(リムジンバス)	—

【9 月 23 日(日) - 29(土) トゥール市でホームステイ、9 月 30 日(日) パリ市内泊】

VILLE DE
TOURS
Photo Gallery 2018

ホストファミリーと対面



デカルト高校で
習字ワークショップ



トゥール大学スロワ校技術短期大学部
おりがみワークショップ



スロワ城見学



トゥール市内観光
スリュムロー広場



トゥール市役所



キッズリクリエーションセンター
習字ワークショップ



ディドロ小学校
かるた・習字
ワークショップ



サンガシアン大聖堂



マルムティエ学園
小学部：おりがみワークショップ
高等部：茶道体験



トゥール植物園
日本文化紹介イベントに参加



ヴィランドリー城
城主カルヴァロ氏訪問



親善研修生 報告書 I

日誌・活動記録

ピアノ講師 多田羅 愛

9月23日(日)

いざ、トゥールに向けての出発日。高松駅のバスターミナルに朝4時に集合し、4時半に関西国際空港に向けて出発しました。前日の夜は私も同じ研修生である林さんも、早朝起きられるかが不安でなかなか眠れなかったため、バスの中では2人共殆ど寝て過ごしました。事前に起こった台風の影響で空港への道が混む可能性が高いと言われていましたが、到着予定時刻通りに着き、余裕を持って搭乗手続きをすることができました。入国手続きを済ませ、免税店でホストファミリー用に抹茶菓子を購入し、搭乗するまでロビーで過ごしました。機内で林さんと現地の学校で紹介するかるたや折り紙をどのようにフランス語で説明をするのかを相談したり、映画を観たりして過ごしました。飛行機は大きな揺れもなく、順調に飛行していましたが、着陸段階になると激しく揺れ始め、気分が悪くなりました。揺れのせいで2人共フラフラの状態でしたが、無事到着。荷物を取ってTGV（高速鉄道）のホームまで移動し、サン・ピエール・デ・コール駅行きの電車を待ちました。ホームが思っていたよりもとても寒く、まだ暖かい日が続いていた高松との気候の違いを感じました。電車に乗っている途中、一度線路の上で電車が止まり、暫く動かなくなったり、車両の中でケンカが始まったりして、無事に着くのか不安になりましたが、予定より少し遅れてサン・ピエール・デ・コール駅に到着しました。ホームに降りると、トゥール市役所のアミローさんと私達のホストファミリーが迎えに来ていました。私と林さんは、それぞれのホストファミリーと記念写真を撮り、お互いのホストファミリー宅へ車で向かいました。道中、ホストマザーのイブリーヌとお互いに自己紹介をしました。私が以前、ピアノを学ぶためにパリに留学していたので、イブリーヌはクラシックコンサートに行く計画を立ててくれていました。滞在中の楽しみが増え、イブリーヌの気遣いを嬉しく思いました。車中からトゥール市役所やトゥール駅を案内してもらいました。夜の



出発前、関西国際空港にて

街並みの中、ライトアップされた市役所がとても美しく感動しました。家に到着して、イブリーヌと軽い食事を取り、部屋に案内してもらった後は、疲れていたためシャワーを浴びてすぐに就寝しました。フランスでは基本的に朝お風呂に入るのが一般的ですが、現在イブリーヌは1人暮らしなので、いつ入浴しても構わないと言ってくれたので、滞在中、夜にシャワーを浴びることができました。



ライトアップされたトゥール市役所

9月24日(月)

トゥールに着いて1日目の朝は、自由時間だったので、荷ほどきをして朝食を取った後、ゆったりと家で過ごしました。ホストマザーのイブリーヌは働いていて、不在がちになるので朝食は毎日各自別々に取るという形でした。家にあるものは何でも食べていい、食器も好きなものを使っていいと言われたので、毎日、日替わりで可愛い食器を使わせてもらいました。朝食では、毎日違った種類のパンと、ヨーグルトにジャム、バター、紅茶や玄米茶をいただくことが多かったです。フランスでは日本の文化や食べ物を好む人が多く、イブリーヌも緑茶が好きとのことで、色々な種類の緑茶がキッチンに揃っていました。午後からは、今回の研修中に同行してくれるトゥール市役所のインターンをしているメレアンヌが、待ち合わせの時間よりも早く迎えに来てくれたので、お互いに自己紹介をしながら、トゥール市役所で林さんと合流しました。トゥール市役所は石造りで華やかな装飾が施されており、バルコニーには色とりどりの花々が植えられています、市役所自体が街のシンボリックな存在になっていました。3人でトゥール市役所のオロールさん、アミローさんに挨拶をして、1週間の研修内容を聞いた後、市役所の食堂で昼食を取りました。オロー



トゥール市役所の食堂で

ルさんから、急遽、明日のトゥール大学ブワ技術短期大学部で、習字のワークショップをして欲しいとの要望があったので、林さんとメレアンヌと、どのようにするか相談しながらの昼食となりました。その後、トゥールで日仏交流活動がされている日の出協会の麗子さんと、日本に留学経験のあるエロイーズと落ち合い、トゥールの旧市街を麗子さんの案内のもと散策しました。その後に予定されていたデカルト高校での習字教室まで、あまり時間がなかったので、15世紀の木組みの家や石造りの壁が残るプリュムロー広場や教会、住宅地の中庭に当時の様子がそのまま残されたローマ帝国時代の遺跡やロワール川のほとりを急ぎ足で回った後、トゥール市役



プリュムロー広場にて



デカルト高校で習字ワークショップ

所の近くまで戻り、すぐ裏手にあったデカルト高校の美術教室に向かいました。これがトゥールに来て初めての日本文化を紹介する場だったので、緊張しましたが生徒達は皆明るく対応してくれたので、落ち着いて説明することができました。この日は麗子さんのフランス語での習字の説明の仕方をしっかり見学し、翌日からの各学校での指導に向けての参考にしました。生徒達は、「光」の字を書いて、その横に私と林さんがカタカナでそれぞれの名前を書いてあげると、とても喜び、自分の名前が日本語で書かれていることに目を輝かせていました。フランス人にとっては、日本語の文字そのものが新鮮で、異国情緒溢れるものであると再認識しました。

生徒の名前の中には難しい発音のものがあって、何度も聞き直したり、確認したり時間を掛けてカタカナを書きました。その名前を見た生徒の笑顔が心に残りました。授業の後に、美術の先生から、この高校には約1,700人生徒がいて、この地域では1番偏差値の高い高校だと伺いました。習字教室自体は1時間で終わり、時間があつたので、その後、麗子さん達とカフェに行ってお茶を飲み、その周辺をウィンドウショッピングして午後の時間を満喫しました。高校訪問前に観光した旧市街とは打って変わって、近代的なお店が立ち並び、最新のトラムが走っているのを見て、トゥール市役所周辺は生活環境が都会のように整っていると思いました。

9月25日(火)

朝8時に集合し、トゥール駅から国有鉄道に乗って30分程のプロワに向かいました。中世、プロワはルイ12世からアンリ4世の時代まで約100年に渡り、フランスの経済活動の中心地であった場



プロワ城入口にて

所です。まず、トゥール大学プロワ技術短期大学部に行き、学校を案内して下さるファーマー先生に挨拶をして、1日の打ち合わせをしました。先生は午前中授業があつたので、案内係のピエールさんがプロワ城を案内してくれました。プロワ城では、4つの時代の建築様式を一同に見ることができ、さらにゴシック、ルネッサンス、バロック様式の建物が混合した造りとなっています。特に印象深かったフランソワ一世翼棟は、初期ルネッサンス様式で建てられており、内装はイタリアの影響をうけた華やかな装飾が目立っていました。国王を象徴する「火をはき、

火を食い、火を抹殺するサラマンダーの紋章」というトカゲのようなモチーフが、城内のいたるところで使用されていました。ピエールとメレアンヌに城内の装飾や調度品などについて丁寧に説明してもらい、城内では部屋を撮影すると、当時のその部屋の様子が再現される機能が付いたタブレットを借りることもできたので、その時代にタイムスリップしたように見学することができ、大変興味深かったです。

見学後、プロワ城の近くでファーマー先生と落ち合い、ピクニックランチをいただきました。先生が用意して下さったハンバーガーとじゃがいものフリットをみんなで楽しく食べていたのですが、風が強く気温が低かったため、震えながら食べました。ピクニックの後は、再びピエール達と共にプロワの旧市街を散策し、サン・ニコラ教会の中を覗いて過ごしました。この教会には、ルネッサンス様式の塔があり、ロマネスク様式とゴシック様式が合わさって作られた教会でした。内部には巨大なパイプオルガンがあり、調律師の男性がパイプオルガンの音を鳴らしている様子を見ることができました。この時何故か私のカメラが起動しなくなり、しばらくカメラが使えないハプニングがありました。林さんが奇跡的に直してくれて胸をなでおろしました。その後、大学に戻り折り紙教室を開催しました。前日オロールさんからは習字をするよう依頼さ



プロワ城見学



大学生と折り紙ワークショップ

れていましたが、状況的に習字をする環境を整えることが難しそうだったので、急遽、折り紙をすることにしました。20歳前後の大学生達だったので、難しい鶴を折ることに挑戦してもらいました。折り紙はフランスで人気があるようで、私達が教えなくてもカエルや恐竜を次々に折っていく生徒もいて、和気藹々とした時間を過ごすことができました。ファーナー先生に校内を案内してもらい、技術工学を学ぶ生徒達のインタビューも交えながら、どのような機械を使って何を勉強しているのかを細かく教えていただきました。日本人の留学生は3人いて、

難しい内容などは日本語で説明してもらえたので、とても助かりました。ブローからトゥールに戻り、夕方からはイブリーヌと慈善事業の一環のパーティーに向かいました。イブリーヌは、フランスで移民問題や貧困などの理由で弱い立場にいる人達を援助する活動をしており、このパーティーでは、フランスの高度な縫製技術で作られたランジェリーの売り上げの一部を寄付することを目的としているようでした。私は唯一の日本人だったので、参加していた方達から、なぜトゥールに滞在しているのか、日本のどこから来たのかなどと話し掛けられ、高松からの親善研修生として来たことを説明すると、スマートフォンで高松を検索してくれる人もいて、高松に興味を持ってもらえて嬉しく感じました。

9月26日(水)

朝、オロールさんの案内で、現地でレ・アールと呼ばれる常設市場に行きました。売られているものは食材ばかりで、肉屋、魚屋、八百屋、チーズ屋、パン屋と、ここに行けば普段の食生活に必要なものが全て揃います。肉屋やチーズ屋は1つだけでなく何店舗もあり、オロールさんおすすめのチーズ屋では、ヤギのチーズを何種類か試食させてもらうことができました。どのチーズも香りが強く、味も濃厚で美味でした。スーパーマーケットで売られている肉よりも、レ・アールで売られている物



レ・アール(常設市場)

の方が新鮮で、種類も豊富であり、計り売りなので、必要な量だけ買えるところが便利でいいなと思

いました。レ・アールの外に出るとマルシェ(市場)があり、毎週木曜日の朝は、広場にたくさんの出店が揃うと教えてくれました。ロワール地方は土壌が豊かで、作物を育てるのに適した気候のため、トゥールの人達は地産地消を大事にしているそうです。

オロールさんと別れた後、トゥール美術館に向かい、古典絵画からコンテンポラリー絵画までが揃った館内で鑑賞を楽しみました。ルーベンスやレンブラント、ドラクロアを始め、ドガやモネ等の絵画もあり、大変見応えがありました。また絵画だけではなく、貴重なアンティーク



キッズリクリエーションセンター

クの時計や家具、中世の彫刻、現代アートの作品も鑑賞することができ、フランスの美術をしっかりと堪能することができました。その後、サンシール日仏友好協会のクレオラ美紀さんにお会いして、ロワール川を渡ったところにあるサンシール市にあるキッズリクリエイションセンターを訪問しました。ここでは、学校が長期休暇の間、日中子供を預かるための施設になっていて、子供達は第2の学校のように毎日来て時間を過ごしています。フランスの学校は一般的に水曜日が休みですが、親が仕事で家にいない子供達は水曜日にもここに送迎バスに乗って来て、夕方までの時間を過ごすそうです。森の中にバスケットコートや子供が遊ぶための遊具、広々とした教室があり、子供達が伸び伸びと遊びや勉強をすることのできる環境になっていました。昼食を食堂でいただいた後に、10人くらいの子供達と一緒に習字と折り紙の教室をしました。生徒数が少なかったため、習字の用具を交代で使いながらゆっくりと教えることができました。外で遊んでいる時は賑やかな子供達でしたが、「空」の字を筆で書く時はみんな真剣な表情でした。小学生が対象だったので、折り紙は簡単なハートを折りました。みんなが嬉しそうに出来上がったハートを見せてくれた時は、喜んでもらえて良かったとほっとしました。出来上がった作品を手にみんなで記念写真を撮り、その後、暫く外に出て子供達と遊んだ後、トゥールに帰りました。この日はメレアンヌと林さんと3人で市内のコリアンレストランに行き、夕食をとりました。それぞれの趣味の話や将来のことについて語り楽しい時間を過ごしました。



© Ville de Tours - DRICO
一緒に折った折り紙と一緒に

9月27日(木)

トゥールに来て初めてトラムに乗り、市内にあるディドロ小学校を訪問しました。5年前に開通したトラムは、外見も内装もスタイリッシュで機能的でした。あらかじめお金をチャージしたICカードを機械にかざすだけで簡単に乗車でき、移動をスムーズにすることができました。ディドロ小学校ではクラスの生徒数が日本より少ない印象を受けました。クラスでは習字、かるた、折り紙教室



© Ville de Tours - DRICO
ディドロ小学校に



サンガシアン大聖堂

を約3時間にわたって行いました。習字教室の際には、開始早々に墨汁を床にこぼしてしまった生徒がいて、雑巾とバケツを持ってトイレまで往復するというアクシデントもありましたが、いざ筆を持って書く時になるとそれぞれ真剣に取り組んでいました。書いた字の左横に生徒達の名前を細筆で書いてあげると、みんなとても喜んでくれました。折り紙教室では、林さんがハートと風船の折り方を指導して、みんなで思い思いに作りました。その後、3班に分かれてかるたをして遊びました。フランス語のかるたが無かったので、代わりに子供達が分かり易いように、写真に日本語とフランス語の訳が書かれたカードを使用しました。一番子供達が夢中になって取り組んでくれたのですが、カードの取り合いでケンカが起こり、担任の先生に厳

しく怒られて、泣いてしまう生徒がいて、小学校ならではの問題も起こりました。休憩時間になると一目散に校庭に走って遊んでいる様子は日本の小学校と変わらないなと思いました。学校で昼食を取った後は、サンガシアン大聖堂に行きました。ステンドグラスが有名なことは知っていたのですが、実際に中に入って見るとその美しさと壮大さに驚きました。とても大きなパイプオルガンもあって、大聖堂ならではの迫力がありました。大聖堂を見学した後は、かわいらしい雑貨屋を覗いたり、プレミアムロー広場のカフェで休憩をとるなどしました。その後、ツール滞在中に、私が楽しみにしていた



フランシス・プーランク音楽学校

フランシス・プーランク音楽学校を訪問しました。この学校には、6歳からの生徒が1000人以上在籍しており、クラシックの楽器の他に古楽器も学べる環境が整っています。近年クラシック音楽界では、当時の楽器を使って演奏する演奏会や取り組みが流行していますが、貴重な古楽器は簡単に触れられる機会がないので、チェンバロやフォルテピアノが置いてある教室に入って、楽器を少し弾かせてもらえた時にはとても興奮しました。音楽の他にも、クラシックバレエ、コンテンポラリーダンスやモダンダンス、舞台演劇の

カリキュラムもあり、ツールで1番レベルの高い音楽学校の素晴らしさを見せてもらうことができ感動しました。学校見学の後は、一度、家に帰り、近くのスーパーマーケットに食材の買い出しに出かけました。私と林さんは、それぞれのホストファミリーに、日本食を振る舞う用意をしてくれていたの、私はイブリーヌに日本から持ってきたさぬきうどんと天ぷら、かき揚げを振る舞いました。うどんも天ぷらも食べるのは初めてだと聞いていたので、気に入ってもらえるか不安でしたが、お箸を楽しそうに使いながら完食してもらえて嬉しく思いました。特に天ぷらが気に入ったようで、食べ終わった後に、天ぷらの作り方をフランス語でメモを取りながら聞いてくれて、楽しい夜を過ごすことができました。夕食をとった後は、イブリーヌが家族のアルバムを見せながら、子供が3人いること、それぞれがパリやメルボルンで離れて生活していること、ご主人は亡くなったので、現在は以前所有していた屋敷を手放してツールで独身生活を満喫していることなどを話してくれました。



イブリーヌ、初めてのうどん

9月28日(金)



マルムティエ高校でお茶会

この日の午前中は、マルムティエ学園を訪問し折り紙と茶道教室をしました。マルムティエ学園は、小学生から高校生までが在籍する私立の学校で、敷地内には、昔、修道院や教会として使われていた建物や、新しく作られた近代的な建物が混在した作りになっていて、緑豊かな美しい自然の中で生徒達は授業を受けていました。小学生のクラスでは、マルムティエ学園の安井さんに協力してもらいながら、折り紙でハートとウサギと鶴を折りました。鶴はやはり小

学生が折るのには難しく、時間が掛かりましたが、立体的なので生徒達に1番人気がありました。折り紙のクラスの後、校舎を移動し、高校生7人に茶道を披露しました。茶道は、フランスで「セレモニー・ドゥ・テ」と呼ばれ、広く知られていますが、実際に抹茶を飲む機会はあまりなく、生徒達はとても楽しみにしていたと言ってくれました。しかし、初めて飲む抹茶の苦い味に不思議そうな顔をしている様子を、林さんと笑いながら見ていましたが、誰も飲み残すことなく、「ありがとう」と言ってもらえました。午後からはオロールさんも加わってヴィラン



美しいヴィランドリー城

ドリー城を訪問しました。ヴィランドリー城と玉藻公園は、城と庭園管理に関する知識や技術を共有し交流をするために、平成28年に連携協定を結んでいます。また、ルネッサンス様式としては、ロワール川沿いに建てられた最後の城で、建物と庭園が見事に調和していました。城主のカルヴァロさんにお会いすることができ、城内を一緒に回って案内していただきました。城内は美術館のように沢山の絵画があるほか、当時の生活を再現した食堂や、当時使われていたベッドや調度品も展示されていて興味深く感じました。また、展望台から眺めることのできる庭園は素晴らしく、「愛の庭園」をテーマに正方形で作られた優しい愛、情熱の愛、移り気な愛、悲劇的な愛の4つの庭のほか、水の庭園、太陽の庭園、迷路、薬草の庭、菜園と広大な敷地の中に広がる様子は今まで見てきた中で一番美しかったです。訪れた時期もよかったので、色とりどりの花や美しく刈り込まれた緑は圧巻でした。



フレンチエチケット流の食器の配置

夜は、イブリーヌが、鴨を低温油の中でじっくりと火を通して作る、フランス料理の代表とも言える「コンフィドカナル」を用意して待っていてくれました。前日に私が好きだと言った料理で、日本ではあまり食べる機会がなかったので久しぶりに食べることでとても嬉しかったです。この日は食事の際のフレンチエチケットも教えてもらい、ナイフやフォーク、スプーンを置く位置、伏せて置くか置かないかで、イギリス流との違いがあることなどを教えてもらい、銀食器を使って少し緊張しながら食事を取りました。

9月29日(土)

午前中は自由時間だったので、朝はトゥール市内を散策しながら過ごしました。入ってみたいと思っていた教会の中を見学したり、イブリーヌの家の近くにあって気になっていたパン屋、コーヒーショップを覗いて、家族へのお土産を買うなどして市内観光をのんびりと楽しみました。日曜日だったので人通りも少なく、静かな街中に響き渡る教会の鐘の音が荘厳でした。この日のお昼の食事が、イブリーヌと2人で取る最後の食事でした。前日のコンフィドカナルとじゃがいものピュレを層にしてオーブンで焼いた料理とサラダを2人でいただきました。滞在中、天気がずっと良かったので、バルコニーで食事を取ることが多かったのですが、日本では日常的に屋外で食事をするのではないので良い思い出になりました。午後からのトゥール植物園で開催された日本文化を紹介するイベントに参



植物園での日本文化紹介イベント

加し、用意されていたブースの中で、林さんと高松から持参した高松の観光地の写真でデザインされたうちわに、訪れてくれた人達の名前をひらがなで書いてプレゼントしました。予想以上の人気で、イベントに来て下さった人達に大変喜んでもらうことができました。しかし、用意していたうちわはあっという間になくなったので、代わりに偶然持ってきていた半紙に名前を書いてプレゼントしたのですが、それもすぐになくなってしまいました。日本語や漢字にフランス人は強く関心があるようで、自分の名前がひらがなで書かれたうちわや半紙を喜んで

持って帰ってもらえたので、私も林さんも大変やり甲斐を感じました。その後会場のステージに上がり、高松市からの親善研修生として副市長に挨拶をし、副市長からは私達のことを来場者に紹介してくれました。ただ、この日予定していた高松市を紹介するプレゼンテーションを副市長の前でできなかったことが残念でした。そして、お世話になったメレアンヌとオロールさんに会えるのは、ここが最後となったので、高松から持参したプレゼントをそれぞれに渡して、いつか高松に来てもらうことを約束しお別れしました。オロールさんは、私達がトゥールに来てくれて良かった、各学校での習字や折紙教室がとても好評だったので嬉しかったと言ってくれました。

その後イブリーヌとコンサートに行きました。パスカル・アモイヤルとエマニュエル・ベルトランドというピアニストとチェリストによるデュオコンサートで、会場はホールでなく小さな教会でした。サンサーンス、ディティユー、ドビュッシーをはじめとしたフランス作曲家の作品のほかにも、ブラームスやラフマニノフと盛りだくさんのコンサート内容で大変素晴らしかったです。特にドビュッシーの前奏曲は、留学していた際に勉強した中でも一番思い入れのある曲だったので、教会の中に響き渡る音を聴きながら留学中のことを思い出し、フラン



コンサート終演時の様子

スはやはり芸術面で素晴らしい国であるなど感動しました。私がクラシック音楽に興味があることを考慮して連れて行ってくれたイブリーヌに大変感謝しました。特に演奏者のパスカル・アモイヤルは以前から知っていてCDを聴いたこともあったので、実際に目の前で演奏を聴くことができたことも、コンサートの後に行われた小さなパーティーでも話しができたことも大変嬉しく、いい思い出になりました。トゥールでの最後の夜の思い出が心に残るものとなりました。

9月30日(日)

朝9時にパリに向けてTGVでトゥールを出発しました。見送りには、私と林さんのホストファミリーとアミローさんが見送ってくれました。パリに着いてからはホテルに荷物を預けて、すぐに観光に向かいました。最初に凱旋門を見にメトロでシャンゼリゼ大通りまで移動し、フランクリンルーズベルト駅から凱旋門に向かう形で、ウィンドウショッピングを楽しみました。本場のラデュレでお土産にマカロンを買ったり、紅茶屋を覗くなどトゥールにはなかったお店を見て楽しみました。近くのステーキ

レストランで昼食を食べた後、林さんが希望していたオルセー美術館に向かい、そこで一度別れて2時間程別行動をしました。私はその間、留学時代にお世話になっていた家の大家さん家族に久しぶりにお会いすることができ、懐かしい時間を過ごせました。再び林さんと合流した後は、オペラ座近辺に移動し、百貨店で急ぎ足で買物を満喫しました。ルーブル美術館とエッフェル塔の写真をなんとしても撮りたかったのですが、2人共歩き疲れてヘトヘトだったので、一度荷物を置きにホテルに戻り、



© Ville de Tours - DRICO

TGVでパリへ出発

スニーカーに履き替えて再び出かけ直しました。道中お弁当を買ってルーブル美術館に向かい、写真を撮った後、美術館内にあるガラス張りの逆さピラミッドを眺めながらご飯を食べ、その後エッフェル

塔を見にトロカデロ広場まで向かいました。1時間に1度、5分間エッフェル塔のライトアップが点滅するのですが、それをしっかり動画に収めることができ林さんと大満足で観光を終えました。パリは観光名所がたくさんあり、素晴らしい建物や美術館で街自体が一つの芸術作品のようですが、都会ならではの恐さや人混みの多さもあり、林さんとトゥールとパリ、どちらが良かったかを話し合いながらホテルまで帰りました。部屋に帰って、最後のフランス滞在日を惜しみながら荷造りをし、翌日、日本にむけて出発しました。



パリ、オペラ座の前で

10月1日(月)

いよいよ日本に帰国する日になりました。午後2時のフライトだったので、2時間前には空港に到着できるよう朝食を取った後、すぐにチェックアウトしてホテルを後にしました。ホテルで取ったフランス最後の朝食は、典型的なフランスの朝ごはん、クロワッサンにバゲット、ヨーグルト、バター、ジャム、ハム、チーズ、コーヒーを、林さんとゆっくり楽しみました。余裕を持って出発したものの、空港行きのバス乗り場をなかなか見つけることができず、重い荷物を引きながら大きなモンパルナス駅の周りを、行ったり来たりしてしまいました。どうしようとパニックになりかけた時に、やっと空港行きのバス乗り場を発見し心底ほっとしました。シャルル・ド・ゴール空港までは、パリ市内から1時間ほどで着くはずでしたが、道が混んでいてなかなか着かなかったうえに、私達が降りるターミナルの前には臨時的にバスが停まらず、手前のターミナルから歩いて行くことになりました。早めに出発して本当に良かったと思いました。空港でチェックインしてからは、免税店でお土産のワインや紅茶を買い、軽い昼食にサンドイッチを買ってのんびりと過ごしました。飛行機の中では、前日のパリで歩き疲れた影響か殆ど寝て過ごし、気がつくと関西国際空港に到着していました。10日間の滞在は長いようであつという間に終わってしまいました。

感想文



ピアノ講師
多田羅 愛

トゥール市での研修を終えて

私はパリの音楽学校にピアノを学ぶために留学をしていましたが、留学中は高松市とトゥール市が姉妹都市であると知りつつ、訪れる機会がありませんでした。今回の研修では、初めて訪れたトゥール市の魅力、また留学中には気づかなかったフランスという国の魅力に改めて触れることができ、有意義で貴重な時間を過ごすことができました。トゥール市は、歴史的な文化遺産である城や旧市街、大聖堂が数多くあり、中世を感じさせる街並みを当時のまま残してある一方で、トラムや近代アート等、現代の技術や作品が街に上手く溶け込んだ美しい街でした。また、気候が温暖で自然が豊かであり、滞在中に関わってくくださった人々も親切で温かい人達が多く、困った時に気遣って助けていただいたことに何度も感謝しました。歴史的、文化的遺産に豊かな自然、ゆったりとした街の空気感は、高松市と共通することが多く、まさに姉妹都市となるのに相応しい場所であると感じました。以前、留学していた時には、パリという都会の喧騒の中、限られた環境で限られた人達との交流の中でしかフランスという国を見ることができませんでしたが、今回の研修中には、ホームステイ先のイブリーヌをはじめ、研修に同行してくれたメレアンヌやトゥール市役所のオロールさん、アミローさんはもちろん、それぞれの学校を訪問する時に手伝ってくださった現地の日本人の方達、そして各学校先にいた子供達と、年齢も立場も違う多くの人と関わることができ、とても濃密な時間を過ごすことができました。特に、それまで外国人の幼い子供と関わる機会がなかったので、子供達へのコミュニケーションが一番に心配していましたが、それぞれの訪問先で、子供達が無邪気に駆け寄ってきてくれ、習字や折り紙、かるたに目を輝かせて関心を持ってくれたことが、今回一番嬉しかったことでした。

また、市内の様々な所を見学したことで、改めてフランスの歴史、芸術の素晴らしさを痛感しました。トゥール市と高松市が姉妹都市であることは、まだ両市民の間で広く認識されているとは言えません。両市共に素晴らしい文化と人が存在する市であるので、今後も派遣親善研修事業を通して、お互いの魅力がより広く知れわたることを強く望みます。高松市からだけでなく、いずれトゥール市からも高松市に研修生が来ることができるようになれば、より一層、高松市についての認識が深まるのではないかと思います。それまでは、自分も音楽やフランス語を通して、両市の架け橋となれる活動をしていきたいと思っています。

親善研修生 報告書 II

日誌・活動記録

香川大学 経済学部2年 林 美玖

9月23日(日)



関西空港からいざ出発

いよいよトゥールに出発である。約3ヶ月前から始まった研修がつい最近のように思える。早朝4時に高松駅から関西空港行きのバスに乗った。台風被害に遭った関西空港の状態が心配されたが、無事飛行機が飛んで安心した。フライトの間は、ディズニー映画を4本見たり、同じ研修生である多田羅さんと現地の学校で行うワークショップの打ち合わせをした。約12時間のフライトを終えて、遂にシャルル・ド・ゴール空港へ到着すると、TGV（フランス国鉄の新幹線）に乗り、サン・ピエール・デ・コール駅に着いた。日本出発時からトゥールまで予定通り

りたどり着けるか不安だったが、フランスに留学経験のある多田羅さんの助けもあって到着することができた。トゥール市役所のアミローさんとホストファミリーが駅で私達を出迎えてくれた。私のホストファミリーであるドゥラン家のホストファーザーのヤニックさん、ヤニックさんのお母さんのエレーヌさんと対面した。ホストファミリー宅へ向かう車窓からトゥール市の夜景を眺めた。今までにない新鮮な街並みを見て、「遂にフランスに来た」という喜びと、「これからの研修がとても楽しみだ」という思いが一気に押し寄せてきた。ホストファミリー宅に到着すると、なんと日本人のホストマザーの芽里奈さん、長男のヒューゴ、長女のクラリス、二男のルカ、三男のルイ、四男のレオ、五男のトマ、六男のテオの7人の子供達が私の到着を迎えてくれた。また、ヤニックさんの妹のマリエヌさん、ヤニックさんが校長をしている語学学校でフランス語を勉強していて、同じくホームステイをしている日本人の未奈子さんも迎えてくれた。とは言え、家庭での会話はフランス語である。聞きなれないフランス語が飛び交って混乱しながらも、皆で夕食のキッシュを楽しんだ。



ホストファミリー全員集合！

9月24日(月)

朝7時。時差のせいか、早く目が覚めた。朝食のバゲットを食べていると、エレーヌさんが近くの公園へジョギングに行くと言うので、一緒に連れて行ってもらった。公園内は自然の木々が沢山植わっており、走っていて清々しかった。その後、食品を買いに行くため、スーパーマーケットへ立ち寄った。様々な産地の果物や野菜が、所狭しと陳列されていた。日本では買い物する際にカゴを使用するが、

フランスではキャリーバックに長い持ち手がついたようなものを使っていた。レジでは自分で品物をベルトコンベアーに置き、店員がスキャンしたものがまたそのベルトコンベアーで流れてくるという仕組みだった。エレヌさんと一緒にエコバックに買ったものを入れていたが、収まりきらなかった。12時に、トゥール市役所でインターンシップをしているメレアンヌと多田羅さんと市役所前で待ち合わせた。初めてトゥール市役所を見た時は、美術館と勘違いしたほど彫刻が施された素敵な外観だった。



メレアンヌと

トゥール市役所職員のオロールさんに挨拶をした。来た

ばかりの私達を温かく迎えてくれた。メレアンヌと市役所内の食堂で昼食をとったが、丸い形をしたじゃがいものフリットの食感が病みつきになり、思いの外たくさん食べてしまった。その後、トゥール市を拠点に日仏交流活動をしている日の出協会の麗子さんの案内で、トゥール市内にある旧市街やプレミアムロー広場を散策したり、サンガシアン大聖堂を見学した。中世のヨーロッパの歴史を感じさせ、トゥール市の落ち着いた雰囲気



病みつきのじゃがいものフリット

に溶け込んでいた。散策をした後、麗子さんとともに市役所の近くにある高校へ向かい、習字教室を開催した。人数が多かったため交代制で行った。「光」という漢字を書く時に、漢字のパーツをアルファベットに見立てたり、習字特有の「とめ」や「はらい」に苦戦している生徒がいた。私と多田羅さんと、生徒たちの名前を聞いて紙の左側にカタカナで名前を書き入れた。中にはカタカナの一覧表記を見ながら自分で書き入れている生徒もいて、漢字・ひらがな・カタカナに大変興味を示しているようだった。既に書き終

えた生徒には、私がうどんや高松張子といった特産品や、瀬戸内国際芸術祭などについての紹介を行った。みんな興味津々に話を聞いてくれてうれしかった。話を聞いてくれていた生徒のうち何人かは、日本に行くかもしれないと話していて、ぜひ高松にも訪れてほしいと思った。習字教室を終えて、麗子さんとトゥール市役所近くのカフェで休憩したり、百貨店などのお店を見て回った。ホストファミリー宅へ帰り、夕食までまだ時間があつたため、エレヌさんとテレビを見た。当然全てフランス語で、私にはさっぱり分らなかった。いつかニュースの内容が分かるようになってほしいと思った。今日の夕食はフランスの家庭料理のトマト・ファルシ(トマトの肉詰め)であった。今朝大量に買っていたトマトは、このためかと合点がいった。初めて食べる料理だったので、オープンから出てきた瞬間目が輝いた。出来立てだったので、やけどしてしまっただけで、とても美味しかった。やはり子供達が集まると一気に賑やかになる。夕食を食べながら今日あったことをフランス語で報告した。慣れない言語で話すのは難しかったが、何とか伝わったようで安心した。



日の出協会の麗子さんと習字教室

9月25日(火)

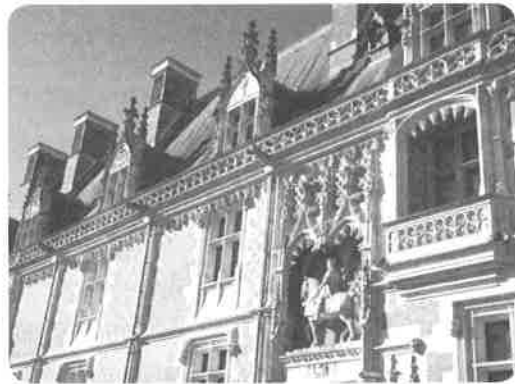
今日はトゥール市郊外にあるトゥール大学ブロワ技術短期大学部へ向かう日だ。朝8時頃にTER(国有鉄道の電車)に乗り込み、席に向かっていたその時だった。なんと電車内のドアに挟まれてしまった。痛くはなかったが、かなり驚いた。メレアンヌはその状況がよほど可笑しかったらしく、しばらく笑いが収まらなかった。後からわかったことだが、ドアの上にあるボタンを押さないとドアが長開きしないらしい。ボタンは私の手には届かない高さのところであり、どのみちドアに挟まれる運命だったのだと思った。無事に座席にたどり着き、3人で今日のワークショップの打ち合わせを行った。



ファーナー先生と帰りの電車にて

初習字を行う予定であったが、墨汁の残りを考慮して折り紙に急遽変更した。移動時間中は折り方の動画を見ながら練習したり、フランス語での説明の仕方を練習した。そうこうしているうちに、ブロワに到着した。大学は駅から徒歩5分ほどで着き、通学が楽だろうと、とても羨ましく思った。案内された部屋で、お世話になるファーナー先生に挨拶をした。ファーナー先生とは一度、香川大学の先生の紹介でお会いしたことがあり、フランスで再会できたことにとっても感動した。英語とフランス語が頭の中で混乱し、喜びを上手く伝えられなかったが、ただただ嬉しかった。

少しの間ファーナー先生とお別れし、案内係のピエールさんとご友人と一緒にブロワ城の見学に向かった。ブロワ城は多くの貴族が住んでいたとだけあって、外観だけでも当時の王家の威厳を感じ取られるようだった。中へ入るとハリーポッターの世界を感じさせる数々の彫刻や、歴代城主の王妃を描いたと思われる絵画が並んでいた。壁の様子は単なる壁紙ではなく、直接壁に描いているようだ。当時と変わらないその細やかな装飾に圧倒された。専用のタブレットを持って特定の部屋に入ると、当時の様子が映し出された。画期的な道具を片手に、広い城内を回った。当時はお金持ちであることを世に知らしめるため、時代ごとにどんどん増築していったそうだ。広々とした城内を巡りながら、未だに時差ぼけから抜けきれずにいた私は、螺旋階段で目が回ってしまった。ブロワ城を見学した後、ファーナー先生と再会し、ピクニックランチを楽しんだ。風が吹き荒れていて、肌寒い天候だったため、温かいポテトとハンバーガーがより一層おいしく感じられた。昼食後、ブロワの街を散策した。坂が多く、へとへとになったが、教会や遠くから見ると渦巻き模様が浮かび上がるアートが施された階段など、見ているだけで楽しめる素敵な街だと感じた。大学へ戻り、折り紙ワークショップを開催した。留学中の日本人学生2人と現地の学生を迎え、鶴を折った。大学生になると、鶴の折り方が左右対称であると分かれば、私達が折り方を言わずとも完成させられそうだった。1枚の正方形の紙から様々な形ができることにとっても興味深そうにしていた。次にファーナー先生と日本人学生に大学内を案内してもらった。研究室には研磨機など、様々な器具が揃っていた。金属の性質の変化について研究している教室や、紫外線の研究



ブロワ城を見学

研究室には研磨機など、様々な器具が揃っていた。金属の性質の変化について研究している教室や、紫外線の研究



大学にて折り紙ワークショップ

をするための真っ暗な部屋もあった。研究内容についての話は理解するのが難しく、現地の学生がいかに高度な内容を勉強しているかを実感した瞬間だった。キャンパス内を回った後、前の時間に参加できなかった学生を加えて、再び折り紙ワークショップを行った。ある学生が折り紙で、パクパク（指を入れて遊ぶ折り紙）を作って私に見せてくれた。どうやらフランス人のほとんどは、パクパクの作り方を知っているようだ。後から調べてみると、フランスでは「ココット」と呼ばれているヨーロッパの伝承折り紙だったらしい。今回も鶴やハートの形を

折ったが、中にはもっと難しいものを折りたい、という学生もいた。そのため、私はびよんびよんカエルを作ることにした。残念ながら時間が足りず、途中で切り上げることになってしまったが、みんなに楽しんでもらえたようで良かった。ホストファミリー宅に戻り、今夜はパスタを食べた。テーブルの上にはカルボナーラと、ナポリタンの2種類があった。私は2種類とも食べたかったので、そう伝えたつもりであったが、2本のパスタが皿に盛られてしまった。ホストファーザーのヤニックさんは、冗談が上手でいつも私を笑わせてくれる。夕食後は、家族全員で写真を撮った後、子供達とルービックキューブで遊んだ。ルカくんが通う学校ではルービックキューブが流行っているらしい。よく見る正方形のものから、三角形のものなど、様々な形があるようだ。私は人生でルービックキューブを完成させられた試しがない。それでもルカくんには負けるわけにはいかないと勝ちにかかったが、あっけなく敗北した。



ヒューゴ君とルカ君と一緒に

9月26日（水）

メレアンヌといつものように市役所前で待ち合わせをし、オロールさんに旧市街の案内を受けながらレ・アール（トゥール市にある常設市場）へ向かった。野外には果物や野菜などが数多く並べられていた。栽培環境が管理され、大きさや形がそろっているトマトもあれば、中には一緒に育てられたものでも、大きさや形が一つずつ異なっているものもあったが、それらは自然に育てられて実がなっている証拠だと説明を受けた。屋内にも肉やチーズなどおいしそうな食材が数多く並んでいた。私はチーズが大好きなので、すぐに試食コーナーに目がいった。試食したのはシェーブルチーズという、山羊のミルクから作ったチーズである。初めて食べる山羊チーズであったが、塩味が少し効いていて私はこのチーズが気に入った。トゥール市には名物が沢山あり、その一つであるリエット（パテ状の肉料理）が売られていることを知り、後で購入することに



レ・アールのチーズ売り場

決めた。市場を回った後は、メレアンヌと多田羅さんと一緒にトゥール美術館へ向かった。飾られていた絵画は、キャンパスに直接絵具を出して描いたような作品や、物語の一場面を表した彫刻など多数展示されていた。芸術品の多くはその時代を取り巻く社会を表現した作品が多く、時代背景が分かっていたらもっと作品のことを理解できるのだろうと感じた。メレアンヌから作品の説明を聞きながら、ヨーロッパの歴史について深く勉強してみたいと思った。お昼頃からはトゥール市近郊にあるサンシール市で、日仏交流活動をされているクレオラ美紀さんと、キッズリクリエーションセンターへ向かった。先生が子供達を集めるときに、お菓子の名前と呼んでいた。この名称がいわゆる組の名前を表しているらしく、シューケット組やマカロン組など、かわいらしいフランスのお菓子の名前が付けられていた。まずは、集まってくれた10人の9歳くらいの子供達と折り紙をした。ハートの形を折った後、それぞれ自分が作ったものにシールを貼り、顔を作っている子供達もいた。みんな思い思いの



© Ville de Tours - DRICD

キッズリクリエーションセンターの子供達と

作品ができ上がったようで、笑顔いっぱいだった。習字では、「空」と書いた。始めに何度か練習をし、その後半紙に清書をした。漢字のバランスを取るのが難しそうだったが、みんな書き終わった後は満足そうにしていた。ワークショップをし終えた後、少し時間があつたので子供達と外にある遊具で遊んだ。木の幹に括りつけられた細い一本のゴムの橋を渡るゲームをした。私は片足で乗っただけでゆらゆら揺れてすぐに落ちてしまったが、子供達は器用に渡っていた。子供達とお別れの時間になり、私達はトゥール市へ戻った。今日の夕食はメレアンヌと多

田羅さんと私の3人で食べに行くことになった。お店が開くまで時間があつたため、しばらく買い物を楽しんだ後、レストランを探すべくプリムロー広場へ向かった。いろいろと探し回った結果、韓国料理店に入り、私はビビンバを注文した。久々に食べたが、程よい辛さでおいしかった。メレアンヌは韓流ドラマで見たことはあるものの、キムチを食べるのは初めてだそうだ。初めて食べるキムチに終始辛そうにしていた。食事をしながら、好きなアイドルやドラマ、他に行ってみたい国について話した。彼女は日本にとっても行きたそうにしていたので、ぜひ高松も訪れてほしいと伝えた。

夕食後、2人と別れ、ホストファミリー宅へ戻った。ヤニックさんに韓国料理を食べたと伝えると、フレンチじゃないのか、と指摘されてしまった。今日私がトゥール駅前を買ってきたブリオッシュを見たヤニックさんは、膨れたお腹のことをブリオッシュ腹と呼ぶということを教えてくれた。その後ホストファミリーとディズニーランドについて話した。日本では大人でもキャラクターの帽子を被る人がいるが、フランスではそのようなことをするのは子供ぐらいたとヤニックさんが話していた。私も被るのかと問われ、そうと答えると、からかわれてしまった。これを巡って議論が熱くなり、気が付くと23時を回っていた。

9月27日(木)

今日は6時に起きたが、昨夜は夜遅くまで起きていたため少し眠たかった。朝食は、昨日買ってきたブリオッシュを食べた。ヤニックさんによると、このブリオッシュはトゥール市で一番美味しいそうだ。バター風味がふわっと広がって、ヤニックさんの言うようにとても美味しかった。今日はディドロ小学校を訪問する日である。トゥール市内を走るトラムに初乗車したが、まだ運行して間がない

ということもあり、車両の外装も内装もきれいであった。ディドロ小学校に到着し、校内を歩いていると生徒達が私達を見て、「セキー？：誰ー？」と可愛らしい声が次々と飛び交っていた。訪問した

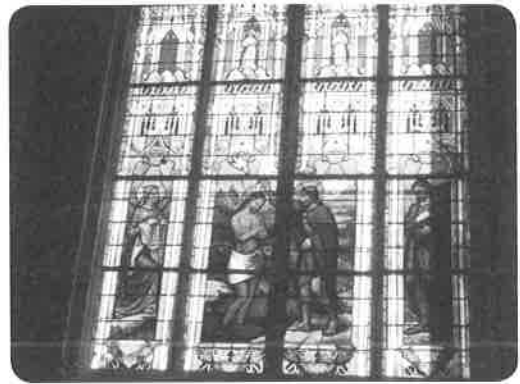


ディドロ小学校でのワークショップ

教室で、まずは習字を体験してもらうため、「花」を書くことにした。左利きの子が書きづらそうにしていたので、手を添えて一緒に書いた。みんな思い思いに筆を走らせ、お気に入りの一枚が仕上がったようだ。生徒達の名前をカタカナで書いてあげた時には、みんな喜んでいて。次にかるたに似せたカードゲームを行った。カードの表面には、玉藻公園や盆栽、うどんなどの写真、裏面にはその絵の日本語とフランス語が書かれている。最初にフランス語でその写真を表すものを読み上げ、子供達に取っ

てもらおうというものである。取った後はその写真の日本語を読み上げ、みんなで繰り返した。自分のカードを獲得しようと目の前のカードに夢中になっていた。最後に紹介する日本遊びは折り紙である。まずは簡単に作ることができるハートを折った。こ

こでも、シールを上手に使って、顔を作っている生徒もいた。次は少し難しい風船を折った。特に隙間に紙の端を差し込む工程を難しそうにしていたが、でき上がった後は手の上でポンポンと飛ばしてみんな嬉しそうだった。午後からは、まず、街のシンボルでもあるサンガシアン大聖堂へ向かった。天井が高く、神秘的な雰囲気漂っていた。窓のすべてにステンドグラスが飾られ、色とりどりの光が教会の中に差し込んでいた。こうしたステンドグラスの絵は、聖書の物語に基づいて作られているようだ。中には王の紋章があったり、花のモチーフがあった。教会特有の空気を味わった後、フランシス・プーランク音楽学校へ向かった。音楽が大好きな



暗闇に浮かび上がる美しいステンドグラス

私は、今日一日この時を楽しみにワクワクしていた。職員の方から案内を受けながら校内を見て回った。この学校には6歳からの子供達が通っているようだ。移動している最中もリムスキー・コルサコフの「熊蜂の飛行」など、様々な曲を演奏する音で溢れていた。私と多田羅さんとメレアンヌは、ピアノ、クラリネット、チェロなどの楽器のレッスンを受けている様子を見学した。どの生徒も真剣に音楽と向き合っていて、とても素敵だと思った。クラリネットのレッスンでは、難しい演奏技法を練習している様子を見学し、私自身も中学・高校でその技法が上手くできずに練習していたことが思い出されて、



念願の音楽学校見学

また演奏したいなという気持ちになった。演奏以外にも、こちらの学校ではバレエやダンス、演劇を勉強するクラスもあるようだ。先生からの指導を受けながら腕を磨く生徒達の姿を見て、将来きっと素敵な芸術家になるのだろうと思った。今夜の夕食は私が作ることにした。日本のキャラ弁の文化も伝えようと思い、オムライスを少しアレンジした料理を作ることに決めた。まずは野菜のカッ

トからである。しかし、予想外の出来事が起こったのは具材をみじん切りにしていた時だった。玉ねぎを切っているとびっくりするほど大粒の涙が込み上げてきた。私の様子がおかしいと思ったエレーヌさんは玉ねぎをみて、玉ねぎ用のみじん切りの道具があることを教えてくれた。しかし、その時すでに私は玉ねぎを切り終えていたので、心の中でも涙を流すしかなかった。ご飯をクマの形にし、その上に卵焼きを乗せて、クマが布団で寝ているように見立てたオムライスが完成すると、すぐさまオムライス撮影会が始まった。見た目も可愛いし、美味しい、とみんなが喜んでくれてとても嬉しかった。



クマのオムライス

9月28日(金)

今朝は幼稚園から高校までの一貫校であるマルムティエ学園を訪問すべく、オロールさんと多田羅さん、私の3人で車に乗り込んだ。移動中に車窓からフランスで5番目といわれる医療大学を見たり、自然がいっぱいのフランスの風景を眺めた。川沿いの道を走っていると、マルムティエ学園が見えて



マルムティエの小学生たちと

きた。到着後、オロールさんとお別れし、マルムティエ学園の高等部の安井さんの案内で校長室に向かった。校長先生と簡単な挨拶をした後、校内を少し散策した。広い校内には青々とした木々が植わっていた。近くにある川が広がり、ここまで栄養豊かな土壌を運んできたそう。安井さんによると理系教育に力を入れているそうで、校舎内には数式が描かれた渡り廊下があり、その様子が伺えた。私達はまず小学生が待つ教室へと向かった。折り紙で安井さんはうさぎの折り方を、私はハートと風船、鶴の折り方を教えた。ここでも、まずは簡単なハートから

始めた。折ったり開いたりして段々ハートの形になっていくのが分かった子供達は、嬉しそうだった。次はうさぎである。安井さんがうさぎを作ると言うので、子供達の顔がぱっと明るくなった。みんなかわいいうさぎができて満足そうであった。しかし、最後に紹介した風船と鶴は子供達にとって難しかったようだ。折り紙の最中、折り方が分からず、途中で止まっていた子に教えてあげると、「メルシー」と言って喜んでくれ、「美玖、こう？」とみんなから話しかけてくれたので嬉しかった。子供達も段々とでき上がる折り紙に興味津々な様子で楽しんでくれた。折り紙という日本の文化を紹介できて良かった。次は高校生とのお茶会であるが、どの生徒も茶道は初めてのようである。多田羅さんがお抹茶を点て、私がお運びの係である。お菓子として用意した和三盆はフランス人にとって、とても甘かったようだ。次にお抹茶を飲んでもらったが、こちら



© Ville de Tours - DRICD

マルムティエ高校でのお茶会

は苦そうにしていた。でも日本の代表的な文化の一つを味わってもらえてよかったと思う。お茶会を終えた後はフランスと日本にまつわる簡単なクイズで交流した。フランスの首都や大統領、フランスのブランドなど、学んだ日本語を使って出題してくれた。やはり日本語特有の助詞や語尾が難しいようだったが、それでもかなり上手に話していた。高校生との交流後は昼食をとった。フランスでは前菜、メイン、デザート順番で一皿ずつ食べていく。マルムティエ学園でも前菜から自分で選ぶスタイルで、どの料理もとても美味しかった。昼食を終えた後、玉藻公園と歴史的庭園連携協定を締結したヴィランドリー城へと向かった。城主であるカルヴァロさんとお会いし、お城についての説明を受けた。ヴィランドリー城はルネサンス期の様式を模倣して作り替えられたそうだ。ここには、寝室にある家具やキッチンなどの様々な部屋から当時の生活が見てと



ヴィランドリー城の素敵な庭園

れた。案内された城内の螺旋階段を上り、ヴィランドリーの庭園を見下ろすと、様々な植物が庭一面に幾何学的な模様を作って植わっていた。まるで不思議の国のアリスの世界を思わせるその光景に、思わず見とれてしまった。ヴィランドリー城の庭園は区画ごとにひとつひとつ意味が込められているそうで、自分が物語の一部に入り込んだ気分になった。帰宅すると、テオ君は床で電車のおもちゃを持って遊んでいた。どうやら狭い空間が好きらしく、机や椅子の下に入っては電車を走らせていた。今度は、ピカチュウのぬいぐるみを私のところに持ってきてくれた。私はそれを見て、折角だから折り紙でピカチュウを折ろうと思ったが、黄色の折り紙はなかったため、仕方なく黄緑色で折ることにした。顔も書いて渡すと、テオ君は顔色の悪いピカチュウがお気に召さなかったのか、どこかへ走って行ってしまった。話によると、フランスでは赤い顔は暑いことを表し、青い顔は寒い、緑色は体調が悪いことを表す色であるらしい。不健康な色なのに、笑顔の相当気味が悪いピカチュウを作ってしまったようだ。次は健康的なピカチュウを折ってあげようと思う。

9月29日(土)

今日の午前中はホストファミリーと自由に過ごす時間である。朝食をいつものように済ませた後、今日は高松市についてのプレゼンテーションをするため、原稿を読んで練習した。やはりフランス語の発音は難しい。流暢に話すには、まだまだ時間が掛かりそうだ。いよいよ植物園に向かうときが



植物園にてエレヌさんと

やってきた。今日はその植物園で日本を紹介するイベントが開催される。ヤニックさんの車に子供達も乗り込んで、車内はぎゅうぎゅう詰めになった。植物園はドウラン夫妻の家から10分程で着いた。多田羅さんと合流すると、オロールさんが案内してくれた場所で、私達のうちわワークショップの準備に取り掛かった。用意したうちわは、片方の面が高松の観光地を紹介したデザインになっており、もう片方が白紙になっていて、その部分に筆でお客さんの名前をひらがなで書くというものである。準備をしている間にも、うちわを見た現地の方々は興味津々

で早くうちわが欲しそうだった。開始前からお客さんが予想以上に押し寄せ、私達は準備と並行して、ワークショップを行うことにした。かなりの大盛況で約40セット用意していたうちわも10分も経たないうちになくなってしまった。急遽、たまたま多田羅さんが予備で持ってきていた半紙に名前を書いて渡すことにした。中にはうちわでないことを残念がる方もいたが、名前を書いて渡すと喜んでくれたので良かった。こちらも、あつという間に半紙が足りなくなってしまった。成す術をなくした私達は、泣く泣く片付けをすることにした。訪れた方全員のうちわを渡すことが叶わなかったが、それだけ日本の文化に興味を持ってくれていることに、私自身とても嬉しく感じた。オロールさんに呼ばれ、私と多田羅さんは植物園内に設置されたステージに上がり、トゥール市の副市長さんが私達を紹介してくれた。いよいよ高松市についてのプレゼンテーションかと思いきや、どうやら時間が押してしまっているらしく、急遽できなくなってしまった。集まった皆さんの前で高松の紹介ができることを楽しみにしていたので、なくなってしまったことが残念だったが、ステージの下でヤニックさんが手を振ってくれているのを見て、改めてホストファミリーの温かさを実感した。舞台から降りて片付けをする中、ブロワでお世話になったファーナー先生が私達のブースまで来てくれた。多田羅さんは、ホストファミリーとの用事が後に控えていたため、早々にお別れすることとなった。私はまだ時間があったため、ファーナー先生と共に、私のホストファミ



夕食後の豆つかみ大会

リーのもとへ向かった。今日で、ファーナー先生とも、しばらくお別れである。刻々と帰国の日が近づくのを改めて感じ、別れが名残惜しかった。ホストファミリーと家に帰り、少しお茶休憩をした。南部鉄器から注がれるお茶は美味しかった。私はトゥール市にちなんだお土産が買ったかったため、ホストマザーの芽里奈さんと一緒に買い物へ出かけた。フランスのお店のほとんどは、19時に閉まってしまうため急いで向かった。以前、オロールさんから教えてもらったトゥール名物リエットとチーズ、そしてお菓子も沢山買った。帰って軽く荷作りを済ませたが、すでにスーツケースは荷物とお土産で一杯で、帰りが不安になった。夕食の時間になると、子供達が嬉しそうな顔をしていた。なぜかと理由を聞くと、今日の夕食はラクレットだと言う。ラクレットといえば、ふかしたジャガイモや、ハムの上にとろけたチーズをかけて食べる、あの料理である。フランスではもっと寒い日のクリスマスなどの特別な日に食べるそうだ。今日は、私がトゥール市で過ごす最後の日だからと、ホストファミリーが作ってくれた。それを聞いて、ああ、今日で最後かと改めて実感し、今までお世話になった分、



お世話になったホストファミリーへ

寂しさが込み上げてきた。美味しいラクレットを食べた後、キッチンから美味しそうなクッキーが運ばれてきた。なんとトマ君が作ったそうだ。トゥールで過ごす幸せ一杯の最後の夜になった。食事を終えて少し落ち着いた後、ヤニックさんからお菓子のプレゼントをもらった。突然でびっくりしたが、とても嬉しかった。私も日本から持ってきたお土産を渡すと、こちらもびっくりした様子だった。お土産に持ってきたお箸の豆つかみゲームが、予想以上に気に入ってくれたようで良かった。ホストファミ

リーと日本の手芸であるつまみ細工を作りたかったが、時間がなかったため、今回は自分が作ったつまみ細工を置き土産にしようと自分の部屋の机に置いた。次回訪れた時は一緒に作りたと思う。

9月30日(日)

ついにトゥール市を出発する日が来てしまった。サン・ピエール・デ・コール駅に到着し、ホストファミリーとここで別れか、と寂しい気持ちで一杯だったが、「また来てね」と言ってくれて本当に嬉しかった。TGVのドアが開いても、姿が見えなくなるまで手を振った。また絶対会いに行こうと思う。

約1時間移動し、パリ、モンパルナス駅に到着した。到着したのは良かったものの、エレベーターを使おうとしても日曜日は動かないらしく、他の出口を求めて彷徨い続け、何とか駅の外に出られた。宿泊するホテルに荷物を預け、まずはシャンゼリゼ通りを散歩することにした。人生で一回は見ておきたいと思った凱旋門が大通りに堂々と建っていた。お土産に本場フランスのマカロンを買って、自分用にも買った。その後、多田羅さんと一緒に昼食をとることにした。多田羅さんお勧めのステーキ専門店があるそうで、わくわくしながらついて行った。パリでの初めてのステーキはとて



© Ville de Tours - DRICD

ホストファミリーとの別れ

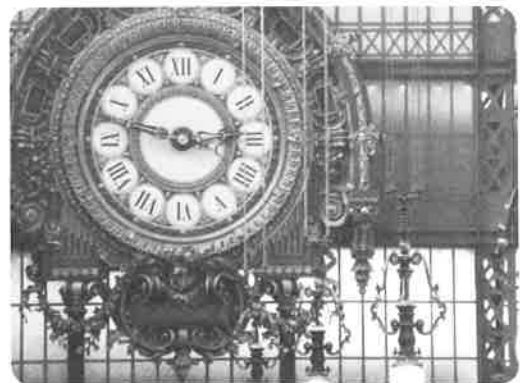
もおいしかった。ソースもミディアムレアのお肉も私の想像を超えていた。長旅の疲れは、おいしいステーキでどこかへ吹き飛んでしまった。ふと窓を見ると、店の外に行列ができていた。開店前から並んでいて良かったと思った。このお店を紹介してくれた多田羅さんに感謝である。私のお気に入りのお店の一つになった。今日は観光とお土産の調達と、大忙しの日だ。バスの車窓から、コンコルド広場を眺めながら次の目的地へ移動した。次に向かったのはオペラ座である。あの有名な「オペラ座



パリにてご馳走ランチ

の怪人」の舞台になった場所だ。私は過去に「オペラ座の怪人」の曲を演奏したことがあり、その舞台を生で見られてとても感動した。今度は実際にオペラを見てみたいと思う。次はそれぞれ行きたい場所があったので、多田羅さんと別行動することにした。

私はオルセー美術館へと向かった。美術館の中に入ると、ゴッホやゴーギャンなどの印象派の絵画や彫刻が多数展示されていた。ちょうどピカソ展が開催されていたようで、中に入ってみると、中学校の美術の授業で習ったピカソの「青とバラ色の時代」の展示もあった。じっくり見ているとあっという間に2時間が過ぎて、最後は急ぎ足で見て回る羽目になった。多田羅さんと合流し、地下鉄に乗ったが、すぐには慣れず、システムがなかなか掴めなかった。近くのチョコレートのお店で少し休憩した



オルセー美術館の大時

後、買い物をした。百貨店で集合場所と時間を決めて、それぞれ好きなのところを巡った。アクセサリなど、何もかもが可愛らしいデザインで目移りした。つつい洋服やお菓子を大量購入してしまった。紙袋で両手がふさがるほど買い物をしてしまったが有意義な時間が過ごせた。ホテルに戻って大



夜空に映えるエッフェル塔

量の荷物を置いたが、私はライトアップされたルーヴル美術館のモニュメントとエッフェル塔をどうしても見えておきたかったため、私達は、程なく夜のパリの街へ出かけることにした。エッフェル塔は1時間ごとにライトが点滅するパフォーマンスがあつて、より一層きれいだった。一日中パリ市内を慌ただしく走り回ったためか、ホテルに帰るとどっと疲れが押し寄せてきた。多田羅さんは、早々と荷物をまとめてすでに寝ていたが、私は明日の朝だけでは荷物がまとまる予感がしなかったため、夜のうちに大量の荷物と格闘した。何とか収まったが、買

い物で一日振り回された紙袋の中のマカロンは、すでに破壊されていた。その光景にショックを受けながら、力尽きて就寝した。

10月1日(月)

今日でフランスとも、しばらくお別れである。慣れない街のため、私たちは早めにホテルを出発したが、これが正解だった。どこが空港行のバスかわからずに彷徨っていたが、ようやく到着した。バスに乗り込み、私達が搭乗手続きをするターミナルが見えたところで突然のハプニングである。なんと車道が込み合っているため、ここから歩いて欲しいと、降ろされてしまった。ターミナルは見えるものの、道が繋がっていない。どうやって辿り着けるのか、ここでもまた彷徨ったが、無事飛行機にも搭乗できた。最後まで波乱万丈だった。離陸の瞬間、フランスで知り合った方々や体験したことが一気に思い出された。フランスで過ごした日々を振り返って、沢山の方々と巡り合えたことに感謝し、貴重な時間だったと感じた。機内では行きのように映画を見る気力はなく、寝たり起きたりを繰り返した。そんな時、ふと「また来てね」というホストファミリーからの言葉が思い出された。もう一度トゥール市を訪れ、次回はもっと長く滞在したいと思った。

感想文



香川大学経済学部 2年
林 美玖

繋がりを大切に

初めてのフランスで言葉に不安を感じながらも、これから始まるトゥール市での生活にとってもワクワクしていたのをはっきりと覚えています。報告書を書いているとトゥール市で過ごした日々が蘇り、もう一度訪れたいと思うばかりでした。現地で沢山の方々に支えられ、一言では言い表せられないほどの貴重な経験を得ることができました。

トゥール市の街並みは目に入るもの何もかもが新鮮で、一面に広がるヨーロッパの空間に圧倒させられるばかりでした。どの古城も庭園もその空間にすっかり溶け込み、沢山の魅力が詰まった街だと感じました。現地の学校を訪問し、多田羅さんと一緒に書道や折り紙などの日本文化を紹介しましたが、どの学校でも子供達が心から楽しむ様子がとても印象的で、興味を持って私達と接してくれたことが何よりも嬉しかったです。トゥール市の自然や街並み、人の温かさに触れ、短い時間の中でもトゥール市の良さを発見することができました。この研修で最も印象深かったのは、ホストファミリーと過ごした時間です。慣れない言語に苦戦しながらもお互いの国の文化や習慣を共有し合い、気が付けば一緒に過ごした時間は、私にとってとてもかけがえのないものになりました。

私がこの研修で学んだのは、人と人との繋がりの大切さです。私は10日間の研修を通して、沢山の方々に会うことができました。フランスで日本の文化を伝えている方や現地での研修に同行してくださった方々、トゥール市での生活をより肌で感じさせてくれたホストファミリー、フランスに飛び立つ前に高松でお世話になった方々、そして今回一緒に研修生として参加した多田羅さんです。異文化の中に飛び込み、その違いを理解する中で、日本を違った角度から見つめるきっかけになりました。関わってくださった全ての方との出会いが、私の価値観に影響をもたらしてくれたと強く感じています。

今まで自分から一步を踏み出そうとしてこなかった私に、大きなチャンスを与えてくれたと胸を張って言える研修でした。私の心を動かしたのは、この研修で出会ったすべての方々です。沢山の方々に支えられ、フランスの歴史や文化、日々の生活を肌で感じることができました。これは、一重に今回の研修を支えてくださった高松市、トゥール市の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。いつかお世話になった方々のように、高松市とトゥール市を繋ぐ役割を担いたいです。あっという間の時間でしたが、この研修で感じたこと、得たことを胸に、自分の言葉でトゥール市の魅力を伝えられたらと思います。

